



こんにちは

日本共産党市会議員

<議会報告>

玉本なるみ

です

連絡先：日本共産党北地区委員会

☎075 - 432 - 3261

2016年10月②号

<議会報告>

◆中学校給食は全員制のあったかい給食に！

小学校の給食と同様に、中学校でも、全員が同じ給食を食べること。給食の1食は、子どもにとっての大切な栄養源になっている。選択制のデリバリー給食では栄養は考えて作られているが、利用せず、結局、コンビニ弁当や菓子パンを買って食べている生徒もあります。

小中一貫校では、保護者や児童生徒の要望を受け、小学校と同じ自校方式の温かい給食が実施され、大変喜ばれています。全員給食に踏み切った自治体との違いは、保護者や児童生徒に、全員制の給食や現在の給食についてのアンケート調査を行っていないことだと追及しました。

→副市長はあくまでも、家庭からの弁当持参を前提に、持参できない方への対策のような答弁です。栄養面は考えられているけれど、子ども達に不人気であることに、着目すべきです。全員が同じ給食を食べることの必要性を強く求めていきます。

◆大宮交通公園の再整備計画を！

老朽化している大宮交通公園の再整備計画を求めました。北消防署の移転候補地に上がっていますが、3000㎡は必要とされています。北区は市民一人当たりの公園面積はワースト2で1.56㎡です（京都市平均は4.84㎡）

人気のゴーカートの存続を求める声も多くあります。再整備に欠かせないことを引き続き求めていきます。



新日本婦人の会の皆さんが、介護保険の改悪に反対し、安心して利用できる介護保険にしよう！と京都市に要請に運動を広げました。

第60回北区母親大会

●心に響く、歌声とトーク ケイシュガーさん

こんなにも涙があふれ感動する（ミニ）コンサートがあるだろうと思うほど、素敵な歌声と平和と命を大切にしようというメッセージが伝わってきました。ケイさんのお父さんが中学校の音楽の先生だったんですが、不当解雇され、その際に子どもたちに送った手紙が紹介されました。こんな素晴らしい先生を解雇するなんて、ほんとに悔しいし、子どもにとって大きな損失だと思いました。ケイさんの歌の素晴らしさの根底にお父さんの生き方があるんだと思いました。



●講演「台所から世界を変える」 藤原辰史さん

藤原さんは、京都大学人文科学研究所の准教授で、昨年、安倍内閣が強引に進めた『安保法制』（戦争法）に対して、自由と平和のための京大有志の会を立ち上げられ、声明を全世界に発信された方です。藤原さんの研究テーマは食の思想史、台所の歴史で著書には『ナチスのキッチン』があります。ナチスがいかに、主婦層をナチス思想に引き込んでいったのかがよくわかりました。ドイツが飢えで苦しんだ経験から、「二度と飢えさせない」というスローガンで、主婦層の心をつかんだこと。さらに、台所にラジオを置くことを推奨し、ナチスの政策を繰り返し流し、サブリーナ効果ですり込んでいったとのこと。

現在、日本はどうか、6人に1人が貧困といわれるほど子どもの貧困が問題となっています。そこで、京都府の伊根町が地産地消で、学校給食を無償にしていることや、最近全国で『子ども食堂』の運動が広がっていることを紹介されました。『食べること』の大切さと運動の重要性を大いに学びました。

高齢者の就労と定年

アンテナ

一般的に定年退職は、60歳です。しかし、今、年金の受給年齢がのびる中で、定年を65歳に延長しているところもあります。京都市においても再任用制度という仕組みがあり、65歳以降も引き続き、仕事を続けることができず。ただし、給料は定年前と同じ仕事をしても、別の料金体系が採用されており、約半分ぐらいの給料になる方もあります。60歳と言え、まだ子どもが大学生などでお金がある方もあります。親の介護でお金が必要な方もあります。

また、暑い日も寒い日も雨の日も、外で真っ黒に日焼けをして、交通整理などのガードマンの仕事がされている高齢者の方をお見掛けします。胸が締め付けられることもあります。年金が少なすぎて、働かざるを得ない高齢者の方の生活実態のお話もお聞きします。

また、年齢に応じた仕事保障される仕組みが必要だと思います。



